

熊本の現状と課題

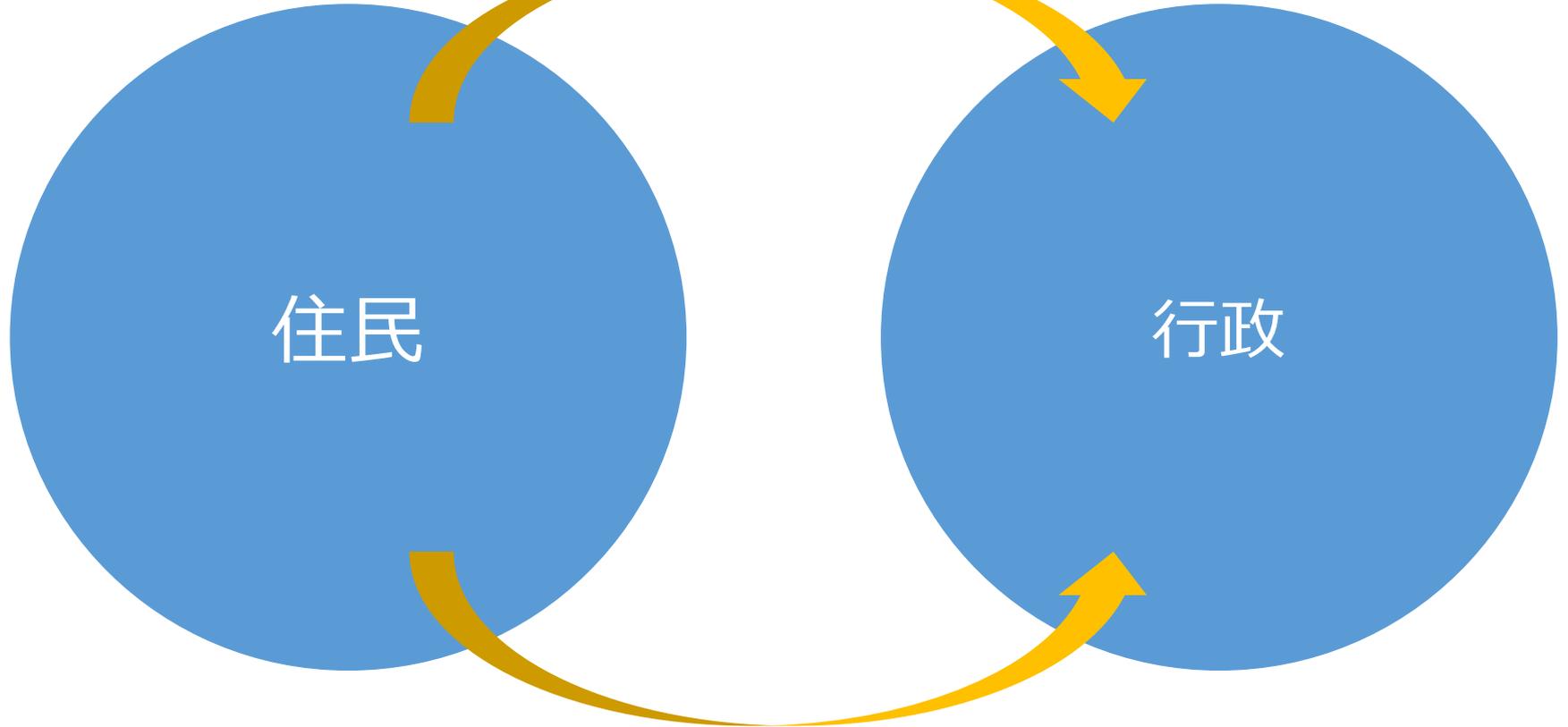
熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻 教授

柴田 祐



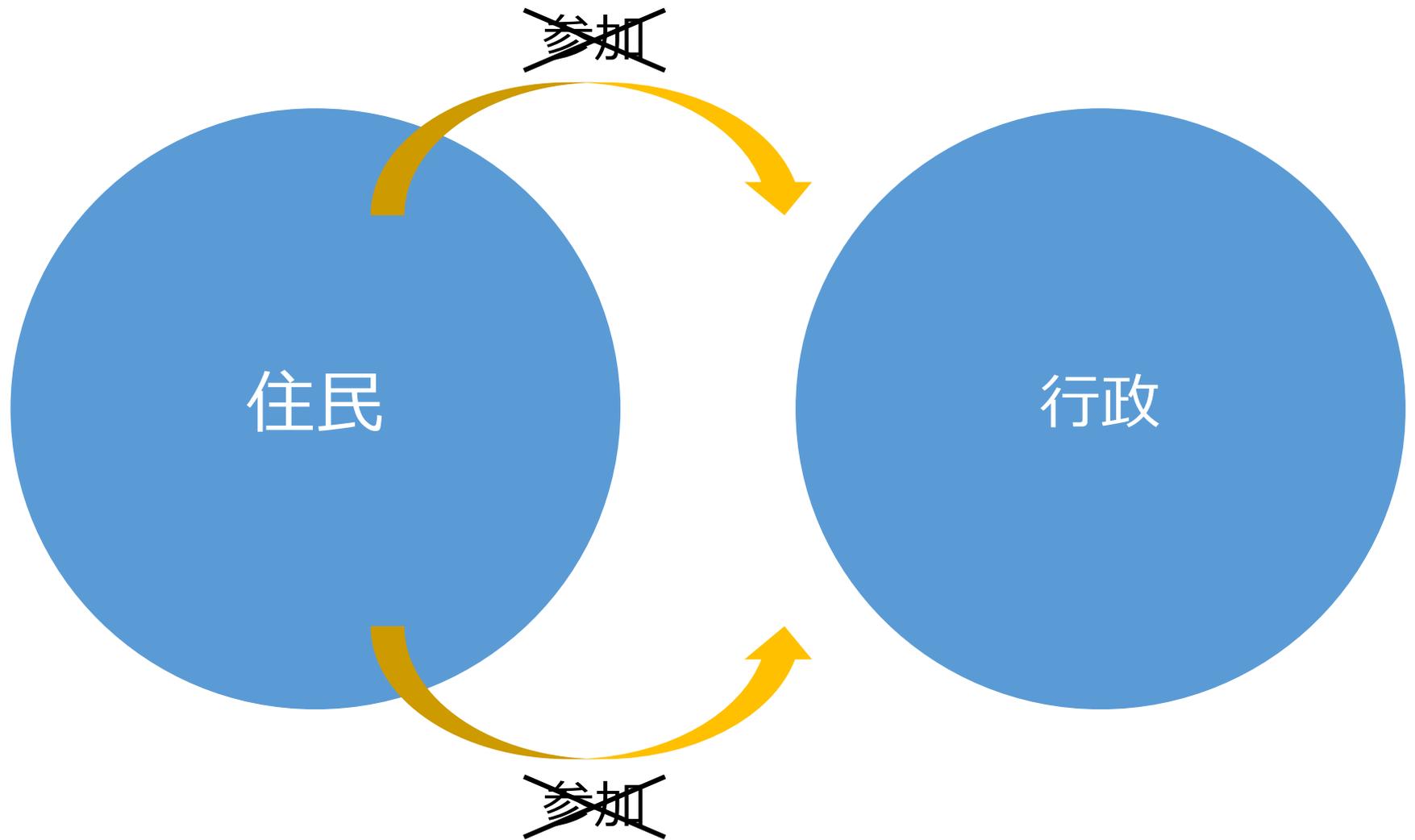
■参加とは

参加



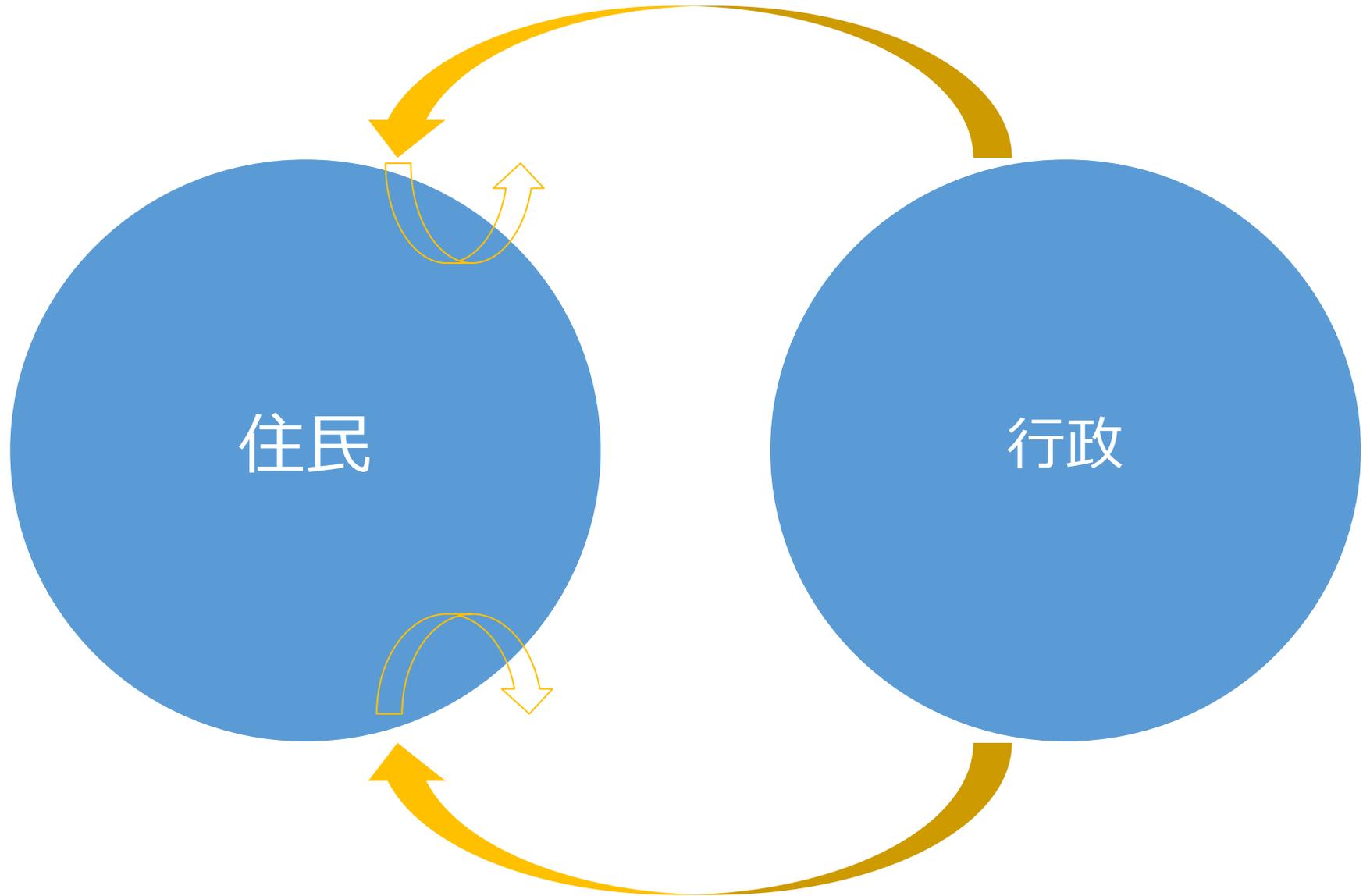
参加

■参加とは



■参加とは

お願い



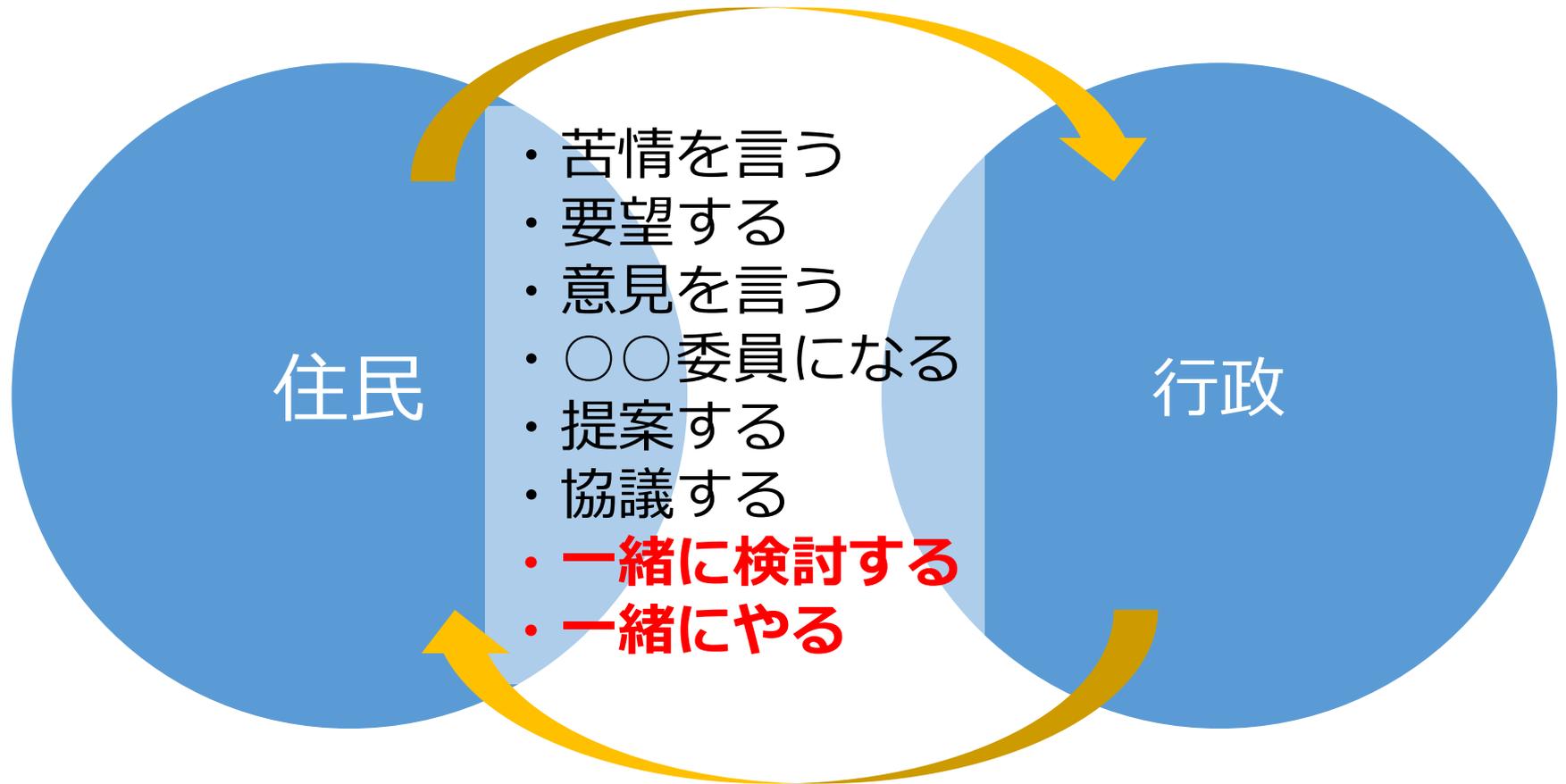
住民

行政

お願い

■参加とは

参加

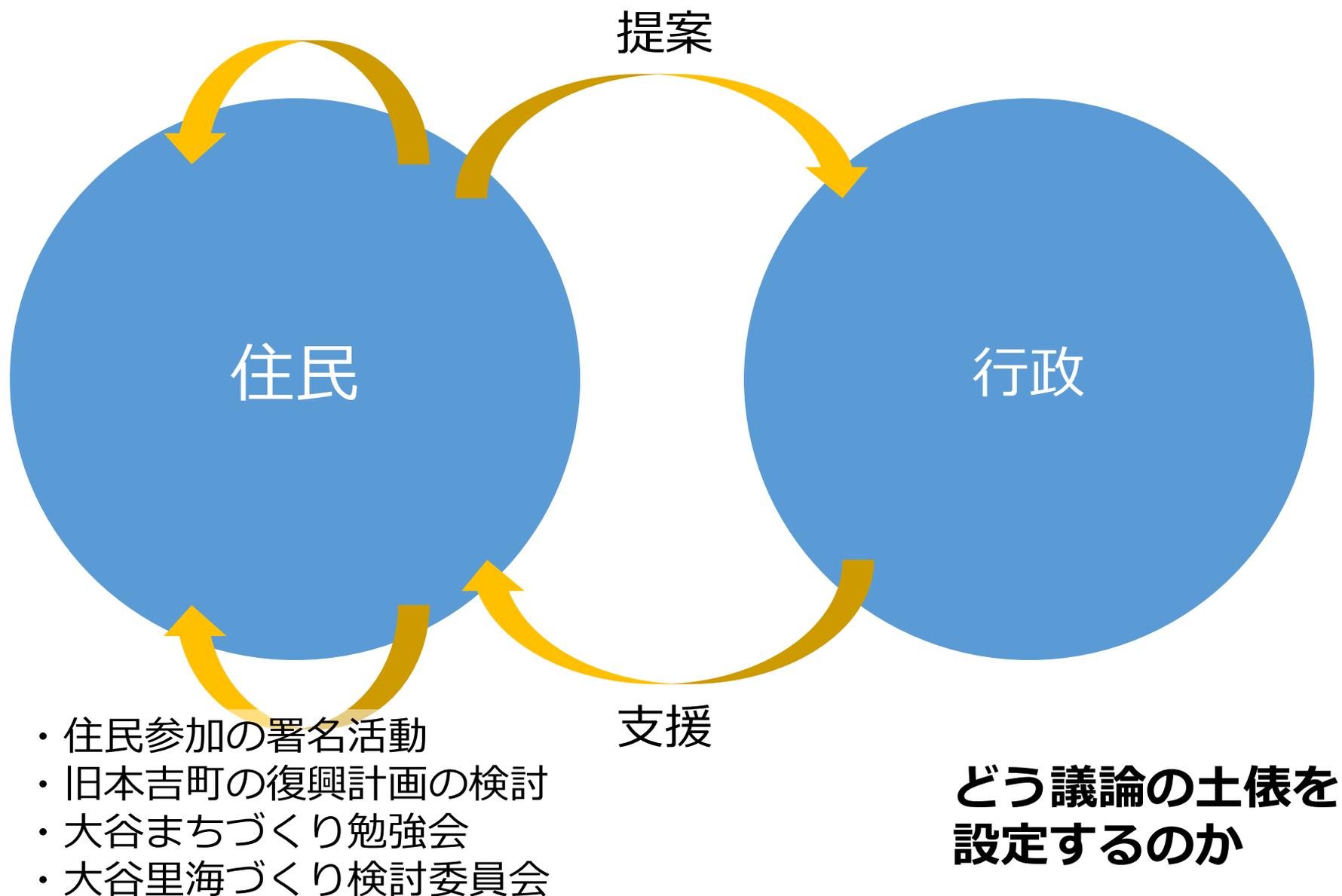


対応

参加を考える際のポイント

- 参加の対象とするエリアの大きさを踏まえる必要
 - 球磨川の流域全体 → ダム → 流域治水
 - 市町村 → →
 - 地区 → →
- 所管を踏まえる必要
 - 国、県、市町村
 - 河川、市街地整備、産業、山林、、、 → 流域治水
 - 参加が得意なところ、不得意なところ
- 住民とは誰か
 - 地権者
 - 居住者、事業者、世帯主、老若男女、子供
 - 市民、県民、関心のある人
 - 賛成する人、反対する人

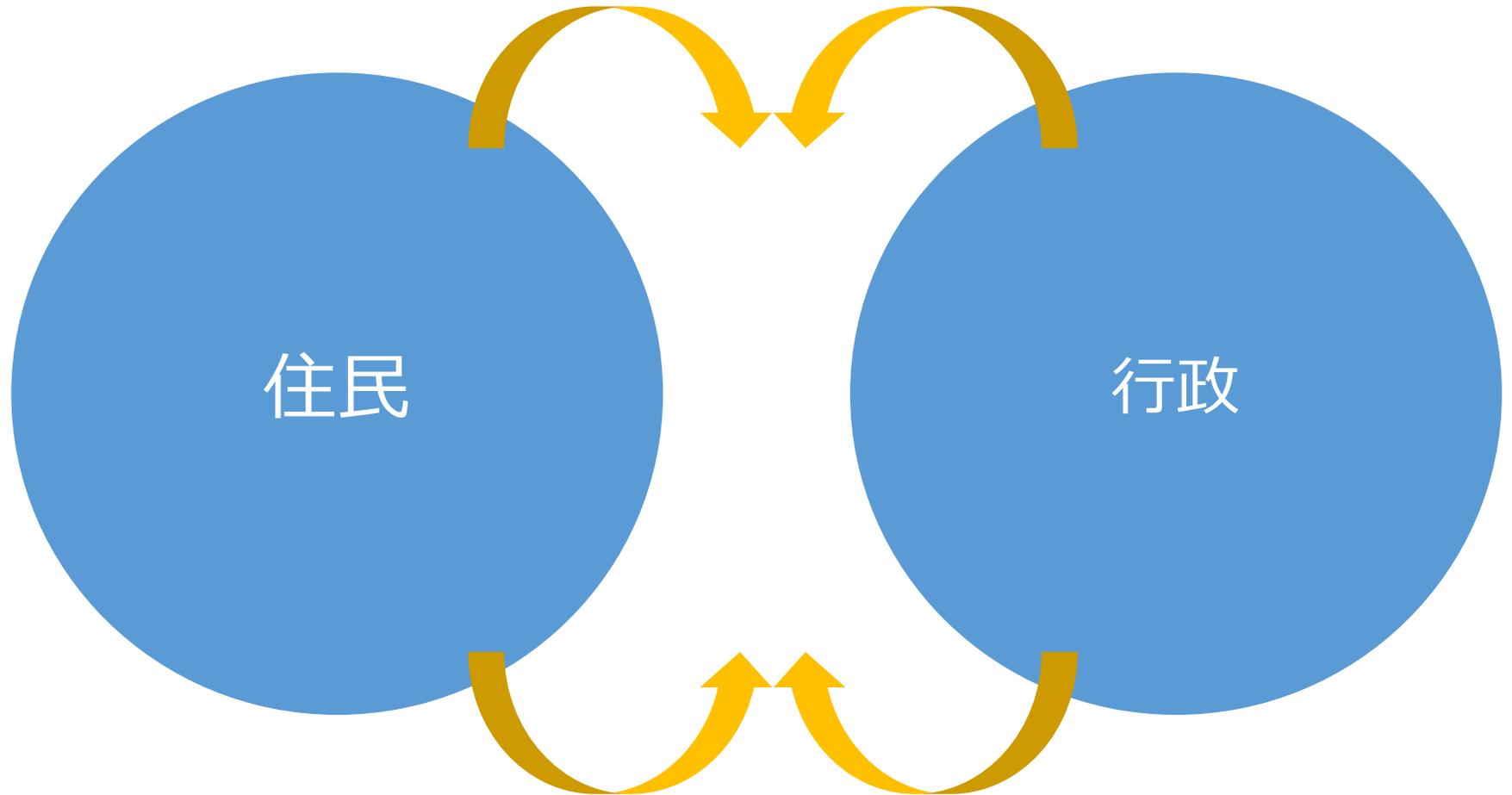
■参加から主体へ



■参加から主体へ

- 信頼関係をどう構築するのか
 - 対話できる関係性の構築
 - 住民 ⇔ 行政
 - 住民 ⇔ 住民
 - 個人の意見では行政は対応できない
 - どこで、どうオーソライズするのか
- 共感度上げ、共通言語を増やす
 - 地域で守りたいものをはっきりさせる（アイデンティティ）
 - 部分的合意形成
 - 共同作業（お祭り、植栽）
 - もう2年だけど、まだ2年
 - 妥協のマネージメントも必要

■ 参加から主体へ、必要なのはお互いの歩み寄り



信頼、土俵

A scenic view of a river valley. In the foreground, a wide river flows through a rocky bed. The middle ground features a red arch bridge crossing the river, and a suspension bridge spanning the valley above. On the right, a train is visible on a track built into a steep, forested hillside. The background consists of lush green mountains under a clear sky.

ご清聴ありがとうございました